



地域と環境マネジメント



岐阜大学環境対策室長 箕浦秀樹

「環境対策室」って何をすることでしようか？

箕浦 地球温暖化の進行にプレッシャーをかけないと大変なことになることは、多くのみなさんが感じていますね。岐阜大学も、教育や研究や診療活動を活発に進めるために、電気、ガスなど多くのエネルギーを消費しています。したがって、いろいろ工夫して、エネルギー消費量やごみを減らすなど、環境に配慮した取り組みをいつそう強化しなければなりません。そういった岐阜大学の環境方針に基づいた活動を行っていく中心を担うのが「環境対策室」です。

この環境に配慮した様々な取り組みを「環境報告書」として毎年まとめ、社会に公開していますが、これを作成することも「環境対策室」の大きな仕事です。

岐阜大学は地域社会の環境保全に関してどのように取り組んでいるのでしょうか？

箕浦 本学の多くの教員が、学識経験者として県や市などの環境関連の審議会委員やカウンセラーなどに携わり、その専門知識を社会に還元しています。こういった地域社会への貢献も私達教員の大きな仕事の一つです。もちろん、環境保全など環境問題についての深い知識と洞察力を持った人材を養成し社会に送り出すことが、大学の一番重要な任務ですね。

環境問題に関する教育はどのようににされていますか？

箕浦 どの学部にも環境に関わる授業が開講されています。科目名に「環境」がつく授業は、大学院を含めて全学部を合計するとなんと100コマに達します。環境とは、理系、文系問わず、様々な視点でとらえることが必要です。環境に関する勉強をしたいと、本学を志願する者が少なくないようですが、彼等の希望に十分応えられるのではないかと思っています。

環境配慮型研究で特に優れた取り組みはありますか？

箕浦 環境配慮型の研究は全学部にわたり多くの研究室で進められてきており、挙げるとキリがないくらいです。特に、製造する際にエネルギー消費量を抑える省エネ型ものづくりの研究がいろいろな分野で行われています。

本学には、流域圏科学研究センターというユニークな研究センターが5年ほど前に設置されました。ここでは、山地森林から都市流域までの多様な自然や人の営みを解明するための研究教育を行っており、環境に関連した先進的な研究も進められています。21世紀COE(文部科学省の卓越した研究拠点形成プログラム)の採択を受け、全国的にも注目されています。

また、本学では環境にやさしい新エネルギーに関する研究も進んでおり、それらの研究成果を基に、未来型太陽光発電システム研究センターが、平成18年12月に日本ではじめて設置されました。

そのほか、汚染された水や土壌を復元する研究や環境教育のための教材作りなど、実に様々な取り組みがあります。

環境に関する学生の自主的な活動は？

箕浦 岐阜大学を訪れる方からは「このキャンパスは自然に恵まれたきれいなキャンパスですね」と言われます。学内の清掃活動など大学自身がキャンパス美化のために努力をしています。学生諸君の自主的な活動もあります。特に岐阜大学を森にしようという壮大な目標を掲げて活動している「Three trees」というサークルは、落ち葉を集めて肥料を作ったり、キャンパスに花を植えたり、様々な活動を行っています。最近では、キャンパス内バス停待合所の壁面緑化により、美観にとどまらず、夏の暑さ、冬の寒風(「いぶきおろし」)対策にも役立っており、好評です。

環境問題はまさに草の根的に、社会全体で取り組まなければならぬ問題だと思えます。岐阜大学でも、これからも「層、教職員と学生が協働して取り組んでいけたら」と思っています。

*「Three trees」の活動は、本誌12ページで詳しく紹介しています。